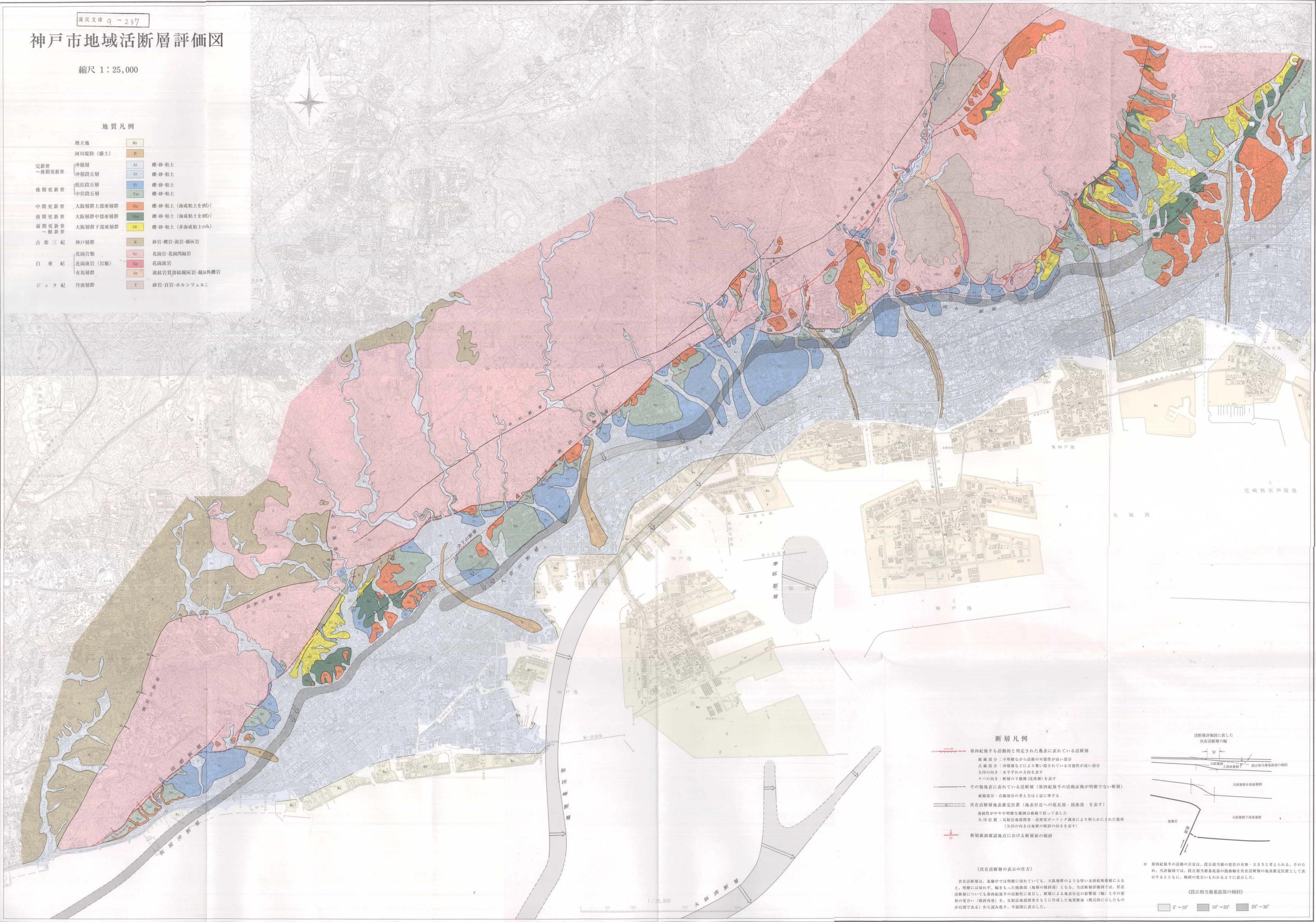


神戸市地域活断層評価図

縮尺 1:25,000

地質凡例

埋立地	Re		
河川堤防(盛土)	B		
完新世	沖積層	Al	礫・砂・粘土
～後期更新世	沖積段丘層	Al	礫・砂・粘土
後期更新世	低位段丘層	Tl	礫・砂・粘土
	中位段丘層	Tm	礫・砂・粘土
中期更新世	大阪層群上部亜層群	Ou	礫・砂・粘土(海成粘土を挟む)
前期更新世	大阪層群中部亜層群	Om	礫・砂・粘土(海成粘土を挟む)
前期更新世～鮮新世	大阪層群下部亜層群	Oi	礫・砂・粘土(非海成粘土のみ)
古第三紀	神戸層群	K	砂岩・礫岩・泥岩・凝灰岩
	花崗岩類	Gr	花崗岩・花崗閃緑岩
白堊紀	花崗斑岩(岩脈)	Gp	花崗斑岩
	有馬層群	Ar	流紋岩質溶結凝灰岩・凝灰角礫岩
ジュラ紀	丹波層群	T	砂岩・頁岩・ホルンフェルス

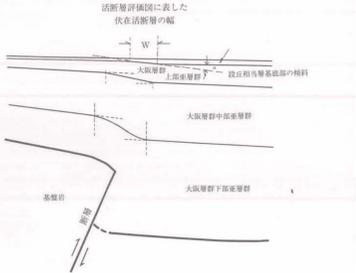


断層凡例

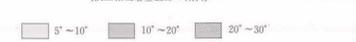
- 第四紀後半も活動的と判定された地表に表れている活断層
 - 破線部分：不明瞭ながら活動の可能性が高い部分
 - 点線部分：沖積層などにより覆い隠されている可能性が高い部分
 - 矢印の向き：水平ずれの方向を表す
 - ケバの向き：断層の下盤側(北盤側)を表す
- その他地表に表れている活断層(第四紀後半の活動証拠が明瞭でない断層)
 - 破線部分：点線部分の考え方は上記に準ずる
- 伏在活断層地表推定位置(地表付近への延長部・拠曲部を表す)
 - 連続性がやや不明瞭な範囲は破線で示して表した
 - 矢印位置：反射法地震調査・高密度ボリング調査により明らかにされた箇所(矢印の向きは地層の傾斜の向きを表す)
- 断層調査確認地点における断層面の傾斜

【伏在活断層の表示の仕方】

伏在活断層は、基礎中では明瞭に切れていても、大阪層群のような厚い未固結堆積層に入ると、明瞭には切れず、軸をもった拠曲部(地層の陥凹部)となる。当該断層群内では、伏在活断層についても第四紀後半の活動性に着目し、断層による地表付近の陥凹部(陥)と全体的な変形の取合い(陥内角)を、反射法地震調査をもとに作成した地質断面(模式的に示したものが右図である)から読み取り、平面図に表示した。



【段丘相当層基礎部の傾斜】



※ 第四紀後半の活動の目安は、段丘相当層の位置・向き・大きさと考えられる。そのため、当該断層では、段丘相当層基礎部の拠曲部を伏在活断層の地表推定位置として表示するとともに、傾斜の取合いもわかるように表示した。